

「理事長就任にあたって」

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 理事長 石塚 博昭

本年4月に開催されました当財団評議員会におきまして、富澤龍一前理事長の後任理事として私が選任され、理事会の決議を受け5月より理事長を務めることになりました。

富澤理事長は、2009年の就任以来本年4月まで8年の長きに亘って当財団の発展に尽力されました。ここに当財団に賜りました功績に深謝申し上げますとともに、今後もご指導ご助言をお願いしたいと存じます。

さて、2016年10月1日現在、わが国の65歳以上の高齢者人口は3,459万人に達し過去最高を更新した一方、現役世代（15～64歳）の人口は、1996年以降減少を続け7,656万人となりました。高齢者1人に対して現役世代2.3人という比率ですが、今後、さらにこの比率は低下を続け、2040年には1.5になると見込まれています。我々は、そうした変化を前提に、社会の活力を維持し、すべての世代が豊かさを実感できる社会システムへの移行を図っていかねばなりません。

高齢社会対策大綱が指摘している「高齢者＝支えが必要な人」という固定観念を変え、意欲と能力のある高齢者の力を活かすことの必要性については、総論では多くの国民、社会に支持されていますが、実現には多くの課題を克服しなければならず、高齢者自身が担い手として積極的に社会参加・

社会貢献していくこと、またそうした意欲を受け入れる社会の構築に取り組む必要があります。

高齢期は一人ひとりの健康、能力等に大きな差が生じてまいります。就労により往年と同じように生産活動で力を発揮する人や、これまでのスキルや経験を活かして若い世代や地域をサポートする人など、多様で柔軟な活躍の場が求められています。支える世代、支えられる世代といった二極化した考え方ではなく、全ての世代が支える人であると同時に支えられる人であるという考えに基づき、全世代がそれぞれの能力に応じた活躍の機会を持てる社会となることを願っています。

当財団としましては、引き続き、行政・学界・産業界・民間諸団体並びに高齢者の方々との連携をいっそう強め、「全ての世代にとって、しあわせで活力ある長寿社会構築」に向けて、実りある調査研究活動およびその成果の普及に努めてまいりたいと存じます。今後とも、皆様方の倍旧のご指導・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



石塚 博昭(いしづか・ひろあき)

表紙写真について

関東地方の寺院
各宗派を代表する寺院紹介

正中山法華経寺

文：榎本奎介

今回は千葉県市川市中山にある正中山法華経寺です。JR総武線下総中山駅から北へ京成本線を越えて徒歩約7分のところにあります。日蓮上人が松葉ヶ谷の法難から逃れて身を寄せたのが下総の富木常忍の屋敷でした。常忍は文応元年(1260年)邸内に法華堂を建立。これが法華経寺のはじまりです。日蓮滅後、出家して日常と名乗った常忍は、日蓮の遺文を後代に伝えることに努めました。「立正安国論」、「観心本尊抄」など数多くの遺文が格護された聖教殿、入母屋が二棟平行して重なった祖師堂、「中山の鬼子母神さま」として親しまれている鬼子母神堂などがあります。